

■枚方市新庁舎整備に関する市議会からの質問等（要旨）と市の考え

資料3

質問等（要旨）	市の考え	基本構想 記述
1. 庁舎の集約化・既存施設の活用		
分散している庁舎機能をできるだけ新庁舎に集約していき、市民があっちこっちに行かずに済むようにすることだと理解しているが、子ども青少年部は全て本庁舎外に移転とする理由や目的は何か。	保育所の入所手続きなどを実施している子ども青少年部も併せて③街区に配置することで、特に妊娠期から子育て期に至る行政サービスを一体となって提供することが可能となり、そうした利便性の向上を図ることで子育て世代の定住促進を目指していく。	市駅前行政サービスの再編の考え方
庁舎の分散化による損失コストのことも踏まえながら新庁舎整備の検討を進めて頂きたい。きららなどの既存施設を有効活用していく理由と方策は何か。	将来を見据えた施設総保有面積の人口規模に応じた庁舎規模の縮減化の考え方や、公共施設のマネジメントなどの観点から、既存施設を引き続き有効活用することで、整備コストの抑制を図る。	既存施設の活用による規模の縮減
既存施設を庁舎として活用していくなら、損失コストの削減に関して、どのような方策を考えているのか。	既存施設を引き続き活用していく際には、ICTを活用し、新庁舎とWEB会議が行えるような通信環境整備などの方策を導入していき、損失コストの削減に繋げていく。	既存施設の活用によりICTを活用
現時点で新庁舎の規模は、さらなる規模の縮減を図るために、輝きプラザきららなどの既存施設を引き続き有効活用するとあるが、人口減少が進展するなか、市有財産を所有し続けることの維持管理コストも踏まえ、庁舎機能の集約化を検討する必要があるのではないか。	新庁舎整備に際しては、市駅周辺のまちづくりや公共施設マネジメントなどの観点から効果的・効率的な整備が必要であると考えている。	既存施設の活用によるマネジメントの観点
公共施設のマネジメントの観点が重要であるとのことだが、枚方市公共施設マネジメント推進計画に基づく施設カルテの評価結果を踏まえてから、基本構想を策定していくべきではないか。	枚方市新庁舎整備基本計画の策定に際しては、将来の人口減少の推移を見据えた施設総面積を意識ながら、施設カルテの評価の検討状況など、公共施設のマネジメント等の観点を踏まえ、市駅前行政サービスの再編や新庁舎の規模に反映していく。	既存施設の活用によるマネジメントの観点
既存施設の活用には、新庁舎規模をコンパクトに抑えて事業費の抑制につながることも考えられるが、ICTの活用や市民の利便性なども考慮した上で新庁舎などに集約することで、既存施設の売却費や使用料を得ることによる維持管理費用が削減できる。 「枚方市新庁舎整備基本計画」では、既存施設の評価結果も踏まえた、十分な議論を重ねて進めることを要望する。また、人口減少やICTの進歩は行政サービスの質や量の変化をもたらす。今後、提供し続ける必要のない業務の見直しも含め、公共施設のマネジメントに取り組んでいただきたい。	—	
2. 駅前行政サービス機能の再編		
保健センターに保健所の移転を予定しているとあるが、保健所には難病の方も申請に来られる。今は、市駅に近い保健所だが、保健センターとなると駅からバスに乗り換える必要があり大変。また、子育てに関することと、福祉に関することの部署が離れていては、子どもの貧困問題などについて連携が取りにくいのではないか。	市民窓口の利便性の向上とあわせて、特に妊娠期から子育て期に至る行政サービスを一体となって提供していく考え。	市駅前行政サービスの再編の考え方
市駅前行政サービス再編の考え方の中に、各機能の拡充を「公民連携により総合的に行う」と書かれているが、どういったことを考えているのか。	市駅前における行政サービスは、効率的・効果的に行政サービスを提供していくために、整備や維持管理、運営等において民間のノウハウを活用していくことを含めて検討していく。	市駅前行政サービスの再編の考え方
③街区の再編は、⑤街区に新庁舎が移転するのであれば、現行よりも市駅から離れることになる。高齢化がさらに進展していく中で、市駅周辺再整備並びに新庁舎整備により市民の利便性が低下するということであれば意味がないと考えられる。（仮称）市民窓口とあわせて図書館について、想定するイメージについて尋ねる。	市民の利用が高い窓口機能については総合窓口を実施していく考えであるが、③街区についても市民の利便性が高まるよう（仮称）市民窓口を検討する。また、図書館については、再整備基本計画においてまちの魅力を高める機能として位置付けており、サンプラザ生涯学習市民センターの移転とあわせて再編を検討していく。	市駅前行政サービスの再編の考え方
③街区での行政機能再編や新庁舎整備において、市民ニーズに応えるためにも市民の活動スペースについては、十分な面積を確保してもらいたい。	—	
市内にある各支所においても、窓口機能や相談機能を充実させて地域で終結できる市民サービスを検討していくべきで、その上で新庁舎整備の検討を進めていくべきと考える。	枚方市駅周辺における窓口機能や相談機能については、本庁舎をはじめ市駅周辺に分散しており、総合窓口やプライバシーへの配慮などのご意見があることから新庁舎整備基本構想や市駅前行政サービスの再編の中で、市民の利便性や財政状況、公共施設のマネジメントの観点も踏まえ検討していく。支所業務は、新庁舎や③街区の整備等の検討内容を踏まえて、今後、検討の必要があると考えている。	市駅前行政サービスの再編の考え方 既存施設の活用による規模の縮減

■枚方市新庁舎整備に関する市議会からの質問等（要旨）と市の考え

資料3

質問等（要旨）	市の考え	基本構想 記述
3. 来庁者用駐車場		
<p>現本庁舎駐車場は、有料化に伴い大きな課題であった繁忙期の入庫待ちの課題が一定解消されている状況であるが、新庁舎では現本庁舎駐車場の台数の72台に対し2倍の144台の駐車場を計画されてる理由は何か。</p>	<p>現本庁舎以外の部署が有する駐車場台数も見込んでいる。また、現本庁舎駐車場は、有料化以前と比較して大幅に入庫待ち時間の短縮されているが、今もなお、道路上での入庫待ちの車も見受けられることから、新庁舎では周辺への影響も考慮し、来庁者用駐車場の計画台数を144台としている。</p>	<p>来庁者用駐車場の考え方</p>
4. 公共施設の複合化		
<p>平成25年の総務常任委員会が、「文化施設単体ではなく、複合施設にすべき」との内容を、所管事務調査最終報告書として取りまとめ、市に対して提言をしているが「複合化」という結論に対して、最大限尊重しなければならないと思う。</p>	<p>施設の複合化は、民間事業者の参画意向調査を含む検討の結果、提言に沿った結果を得ることができなかったが、民間ノウハウの活用した設計をまとめ、現在、工事着工に向けて手続きを進めている。</p>	<p>⑤街区で国・府・市有財産の最適利用を図る</p>
5. 事業手法		
<p>新庁舎整備の事業手法については、どのような検討を行なうとしているのか。</p>	<p>市街地再開発事業手法とあわせて施設整備や運用管理も含めたトータルコストの縮減・事業費の平準化を図るとともに、民間ノウハウを積極的に活用し、市民サービスの向上につながる附帯機能の提案やその実現をめざし、PFI事業手法等の検討を行う。</p>	<p>PFI手法等も踏まえた事業手法</p>
6. 整備財源		
<p>市の想定負担が216億円に対し活用可能な基金は約33億円しかなく、このまま事業に取り組みと、市債の返済などで他の行政サービスに影響を及ぼしかねないと思う。やはり、さらに基金を積み増しするなどの取り組みが必要ではないかと考えるが、財政面からの見解を伺う。</p>	<p>市駅周辺再整備の具体化には、先々の財政運営に支障を来たすことがないよう、長期的な財政の見通しを確実にした上で進めていく必要があると考えている。まずは、より効果的な事業手法の選定と活用できる財源の確保、さらにこれらを踏まえた事業費の精査と実施時期の見極めが必要だと考えており、加えて、既存事業の見直しや新規事業の優先付け等の行財政改革の取り組み、基金への積み立ての増額などを合わせて取り組んでいく必要があると考える。</p>	<p>「枚方市新庁舎整備基本計画」と併せた整備時期を提示</p>
<p>市駅周辺再整備にあたっては、市の財政が大きく悪化することが無いように、しっかりと将来を見据え取り組んでいく必要があると思う。そのためには、事業の見直しなど色々な手法でさらに基金を積み増していくことが大事だということですが、どのように取り組んでいく考えなのか。</p>	<p>市駅周辺再整備を着実に実行に移すためには、財政面での担保が不可欠だと考えているので、市一丸となり取り組んでいく。</p>	<p>「枚方市新庁舎整備基本計画」で全体事業費を提示</p>
7. 整備時期		
<p>今回の地震、台風の災害を受けて、庁舎においては地震では5階部分の水漏れや渡り廊下の天井はくり等12か所に及ぶ被害があり、台風では別館の玄関ひさしの天井崩落等4か所の被害など、まさに満身創痍の状況に思え、庁舎整備の時期はいつ頃か。</p>	<p>新庁舎整備の早期実施については、まちづくりの観点や、本市の財政状況を踏まえながら事業手法の検討を進め、整備時期を示していく。</p>	<p>「枚方市新庁舎整備基本計画」と併せた整備時期を提示</p>
<p>この間の災害での庁舎の被害状況などを見るに、ゆっくりしてられない状況にあるので、着実に進めていただきたい。</p>	<p>—</p>	
<p>⑤街区での新庁舎の整備が最短で2025年完成とあるが、現府民センターの移転があってから、手をつけることが出来るので、③街区の整備スケジュールがポイントになる。⑤街区での新庁舎の整備が最短で2025年完成というのは本当なのか。</p>	<p>新庁舎の整備時期については、関連するさまざまな手続きや調整事項などを含めて最短で見込んだ場合のものであり、今後、施設規模や事業手法の精査、財政負担の検討を踏まえながら、枚方市駅周辺再整備基本計画の中で示していく考え。</p>	<p>「枚方市新庁舎整備基本計画」と併せた整備時期を提示</p>
<p>庁舎の位置を移転する場合、条例でこれを定めなければならない。3分の2の賛成が必要な事項とされている。市が勝手に現行庁舎と異なる位置に新しい庁舎を建設する計画を策定しても、議会の議決を得られなければ時間の無駄となる。新庁舎建設のプロセスの中で、議会手続を、いつ、どのような形で確認されるのか尋ねる。</p>	<p>新庁舎整備は、本市が目指す理念や機能をはじめ、市役所の位置に関する条例改正なども含め、庁舎建設のプロセスなどをまとめた枚方市新庁舎整備基本構想の策定に向けて検討を進めているところであり、適宜、議会への説明に努める。</p>	<p>「枚方市新庁舎整備基本計画」と併せた整備時期を提示</p>
8. 防災リスク		
<p>防災マップにおける内水ハザードマップでは、⑤街区の現府民センターの場所は、浸水リスクはないものの、その周辺が浸水範囲となっていることから、新庁舎への緊急車両の進入ができないなどのリスクが考えられる。また、天野川や淀川からも近いことから、洪水のリスクもあるのではないか、本当に災害対策の拠点として機能できるのか懸念するが市の見解は。</p>	<p>新庁舎位置は、広域緊急交通路となっている府道と接しており、災害時は、緊急輸送のため通行確保に努める考え。また、洪水ハザードマップの想定浸水深は0.5～3.0m未満のエリアだが、淀川が決壊し、新庁舎が浸水する場合を想定して、低層階や地下室には、機械室などの庁舎を維持していく設備等を配置しないなど、災害時にも機能が損なわれないよう検討していく考え。</p>	<p>防災機能における防災拠点の整備や危機管理体制の強化</p>

※9月19日・20日開催の全員協議会・9月定例会より